



県では、40年ほど前からハランの林間栽培が行われており、森林所有者にとって貴重な副収入源となっています。しかし生産現場では、シマハランの圃場（ほじょう）において斑（ふ）入り葉より価格が安い青葉が増加することが問題となつています。そこで、青葉が増加した原因を調査し、有効な対策を検討しました。

掘り取り調査の結果、シマハランの斑入り葉と青葉が同じ個体にある割合は1割ほどで、多くが別個体であることが分かりました。このことから、青葉率

株と実生の葉を調査したところ、親株の青葉率にかかわらず、実生の青葉率は高いことが

## ハラネ林間栽培 青葉増加は種子繁殖 定期的に個体除去を

分かりました（表）。掘り取りの際、実生により成長したと思われる個体が見られたことから、圃場における青葉の増加は、種子繁殖が原因の一つと考えられます。青葉発生を抑制するために有効な対策として、青葉個体を地下茎ごと定期的に除去すること、青葉の実生個体を除去すること、優良な斑入り個体を選抜し増やすことが重要です。

各圃場の親株と実生の青葉率

圃場	青葉率(%)	
	親株	実生
A	30.9	97.3
B	31.3	88.7
C	11.5	90.9
D	52.6	94.3
合計	29.9	93.2

※青葉率=青葉数/全葉数×100

の上昇は青葉個体の増加によるものと考えられます。また、県内4カ所の圃場で親

（県農林技術開発センター・森林研究部門主任研究員 小関 薫）